



雑感

～コロナ禍 人間力が試される～

連日報道される新型コロナウイルスの新規感染者。二本松市内でも確認され、今までどこか他人事のように感じていたものが、急に自分事として対応せざるを得ない状況になって、得体の知れない不安にかられている方も多いのではないのでしょうか。恥ずかしながら間違いなく、「私」はその一人です。

不安にかられる一方で、私は「人間性」が試されているのではないかと考えてしまいます。簡単に言えば、どこまで想像力を発揮して物事を考え、行動しているのかということです。みんなが大きな不安の中にいる時に、自分はどのような思いをもっているのか。どんな言葉を発しているのか。どのような行動を取っているのか。誰かに見られているわけでも、聞かれているわけでもないかもしれませんが、「お天道様（おてんとうさま）」に見られてもいいと胸を張って言えるかということなのです。

- PCR検査を受けるように言われたときの当人・家族の気持ちを想像できる？
- 「陽性」と言われたときの大きなショック、その後の心配事を押し量れている？
- 家庭内で感染者・濃厚接触者が出たら・・・対応の難しさを考えられる？
- 入院することになった方、その家族の思いを想像できる？
- 推測で話をしていない？ 噂話の発信者になっていない？
- 自分の不安を他にぶつけていない？ 対応から逃げていない？
- 自分の考えが正しいと根拠なく思っていない？
- 自分が健康でいることに感謝している？ 家族に感謝している？
- 感染対策だけにとらわれていない？ 他にも大事な要素はあるのでは？
- その他 想像すらできないことも多いのではないかと思うのです。

こんな困難な時だからこそ、想像力を発揮し、周りの人を心から思いやるが必要になっているのではないかと思うのです。私だけでなく、人としての優しさが、学校の優しさが、地域のまとまりが試されているのではないかと思うのです。子どもたちは教師や親、大人の対応を見て学んでいきます。とにかく子どもたちにきちんと説明ができる恥ずかしくない行動を取りたいと考えています。

たとえ、コロナが身近に迫っているとしても、「心」までおかされることは何としても避けなければなりません。みんなで乗り越えましょう。

入学式

～命は大事、一生に一度の思い出の時間も大事～

新型コロナウイルス感染症の拡大が懸念され、開催そのものについて心配しましたが、6日、なんとか入学式を行いました。マスク、換気、ソーシャルディスタンス等基本的な感染症の対策はもちろん、

- 保護者の参加人数は2人まで厳守。在校生児童の参加なし
- 式の時間短縮（国歌・校歌斉唱の略等）
- 消毒・検温の実施、体調管理カードの提出
- 1年生と保護者の動線分け、保護者の1年教室への入室不可
- 入学式看板の2か所設置による写真撮影時の「密」の回避
- 式前後の消毒の徹底

等の対策を講じながらの開催となりました。コロナ禍であっても1年生の子どもたち、保護者の皆様にとっては大事な思い出の時間であることに変わりありません。学校としては命を守るためのコロナ対応は最優先であるものの、とっても喜ばしい日であること、思い出の一日であることを忘れずに対応するように心掛けたつもりです。

マスク越しに見せる子どもたちの表情はとっても晴れ晴れとしていたように感じました。うれしさに満ちあふれているように感じました。

1年生の皆さん、保護者の皆さん、本当に、本当に入学おめでとうございます。

これからみんなで楽しい時間をたくさん作っていきましょう。

